

発表日 平成24年5月10日

担当課：商工部新産業・技術振興課
直通：092-643-3448
内線：3736、3737
担当者：入江、秋田

産油国研修生が福岡県の水素関連施設を訪問します！

福岡県では、他の地域に先駆けて水素関連技術の集積と産業の育成を図り、水素エネルギー・燃料電池分野を本県の成長産業にするため、「福岡水素戦略（Hy-Life プロジェクト）」（参考資料）を展開しています。

平成24年5月18日（金曜日）、一般財団法人国際石油交流センター（JCCP）※が主催する産油国を対象とする研修コース「将来の石油必須技術」の一環として、10カ国の石油会社などから15名の研修生が本県の水素関連施設を見学します。

本研修は、日本の燃料電池システム普及に向けた先進的な取り組みを産油諸国の研修生に見学していただくことで、今後のエネルギー政策立案に役立ててもらうことを目的として開催されます。

今回、水素エネルギー・燃料電池分野における世界を先導する本県の取り組みが高く評価され、研修先として選定されました。

【見学会の概要】

日時 平成24年5月18日（金曜日）10時～16時

主催 一般財団法人 国際石油交流センター（JCCP）

参加者 10カ国15名

（インドネシア、カザフスタン、クウェート、サウジアラビア、タイ、
ナイジェリア、パキスタン、ベトナム、ミャンマー、リビア）

行程

	見学先	説明
午前	九州大学水素ステーション （福岡市西区元岡）	「福岡水素戦略」の社会実証。再生可能エネルギーを利用した水電解方式による水素製造を目指す日本初の水素ステーション
	福岡水素タウン （糸島市南風台、美咲が丘）	「福岡水素戦略」の社会実証事業。エネファーム150台を集中設置して7年間にわたり省エネ効果を検証する世界最大規模の水素タウン
	スマートハウス in 福岡水素タウン （糸島市南風台）	エネファームと太陽光発電、蓄電池を連携させ、停電時の非常用電源としてエネファームを利用する国内初の実証住宅
午後	北九州水素タウン （北九州市八幡東区東田）	「福岡水素戦略」の社会実証。製鉄所副生水素をパイプライン供給により市街地で本格利用する世界初の実証サイト
	北九州水素ステーション （北九州市八幡東区東田）	同じく、製鉄所副生水素をパイプラインで直接供給する日本初の水素ステーション

※1 一般財団法人国際石油交流センター（**Japan Cooperation Center, Petroleum**）

経済産業省を主務官庁とする財団法人。産油諸国等との石油精製部門における技術協力や人的交流を推進する機関として1981年11月に設立された。理事長木村彌一氏。

産油諸国等の石油精製部門に携わっている技術者、中堅管理職、物流・販売関係者を対象に日本の技術・知識を提供し、その向上を図るとともに、日本について理解を深めてもらうことを目的に海外から研修生を受け入れている。